

## 令和7年度 第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会 議事録

- 日 時 令和8年2月4日（水）午前10時から午前11時20分まで
- 場 所 市庁本館3階 第三委員会室
- 出席委員 池田 右文 委員、荻ノ沢 哲也 委員、加藤 美幸 委員、立石 真司 委員、  
堀内 美佐江 委員、阿部 昌宏 委員  
※ 五十嵐 潤 委員、中里 雅恵 委員は欠席
- 事務局 町井 健二 高齢福祉課長、沼岡 裕子 地域包括支援センター所長、  
柏崎 雄介 主査兼社会福祉士、佐藤 楓 保健師、  
岩間 歩乃佳 主事兼社会福祉士

### 次第1. 開会

#### ■司会（沼岡地域包括支援センター所長）

只今より、令和7年度第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会を開会いたします。

本日の会議でございますが、委員8名中、6名の委員が出席しており、半数以上の出席となっておりますので、「八戸市生活支援体制整備推進協議会規則」第5条第2項の通り会議が成立しておりますことをご報告いたします。

では、開会にあたりまして、池田会長様よりご挨拶をお願いいたします。

#### ■池田会長

はい。皆さん、年明け始めの生活支援体制整備事業となります。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

今期は今回をもって終わりということで、また来年度始まっていくと思うんですけど、その中で、より良い形での体制整備について皆さんとお話ししながら、今後も進めて行ければと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

#### ■司会（沼岡地域包括支援センター所長）

ありがとうございます。

続きまして、新たに本協議会の委員としてご参画いただく方をご紹介します。

八戸市民生委員児童委員協議会副会長、阿部昌宏様でございます。

#### ■阿部委員

民児協の阿部と申します。よろしくお願ひいたします。

包括支援センターの方々には大変お世話になっております。特に私どもの地域は、医師会の方々でありまして、問題が起きるたびに相談に乗ってもらっております。本当にありがたく思っています。今後とも、ご支援の程よろしくお願ひいたします。

#### ■司会（沼岡地域包括支援センター所長）

ありがとうございました。

それでは議事に入りますので、ここからの進行は池田会長にお願ひいたします。

### 次第2. 議事

#### ■池田会長

はい、ありがとうございます。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

まず、最初ですけど、住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について事務局より説明をお願いいたします。

## (1) 住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

### ■事務局（岩間主事兼社会福祉士）

地域包括支援センターの岩間と申します。

私からは、議事1、住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、説明をさせていただきます。

このワークショップにつきましては、地域住民が、自身の生活する地域の課題について、解決策や住民自らができることなどについて検討を行い、地域活動の活性化、支え合いの体制づくりの推進を図ることを目的として毎年3回程度開催しております。

今年度は計4回開催し、第1回目の根城地区、第2回目の柏崎地区については、前回の当協議会にて説明させていただきました。本日は第3回目の根岸地区と第4回の中居林地区で開催したワークショップについて報告いたします。

それでは、まず第3回目の根岸地区の内容につきまして、資料1-1をご覧ください。

令和7年11月8日土曜日の10時から、根岸公民館において開催いたしました。

参加者は18名で、内訳としましては、地域関係者が12名、八戸学院大学の学生4名、高齢者支援センター職員が2名となっております。

概要は記載のとおり、はじめに高齢福祉課と八戸学院大学の太木先生より話題提供を行い、次にメインとなるワークショップでは、立石先生に進行していただきながら、6名ずつ3グループに分かれ、根岸地区の将来像、どんな地域が理想かについて意見交換を行いました。

本日の当日資料として、写真が6枚ずつついた2枚物の資料をお席にお配りしておりますが、1ページ目が第3回目根岸地区で開催した時の様子、2ページ目が第4回中居林地区で開催した時の様子になります。

テーマに対する自分の意見を付箋に書き出し、同じグループの人達と共有しながら模造紙を使って意見をまとめ、最後にグループ毎に発表し、出た意見を全体で共有するという流れで行っています。

それでは、資料1-1に戻りまして、1ページの下半分、各グループから出た意見について主なものを属性別にまとめております。

まずは、【生活インフラ、居住環境】に関してですが、段差や電灯など道路の整備に関すること、タクシーやバスといった交通手段に関すること、飲食店など集まれる場所があるという意見が出ていました。車が無くても徒歩やその他の手段で移動しやすく、集まる場所があると良いと感じている人が多いようです。

続いて2ページ目に移りまして、【災害対策、安全な生活環境】に関してですが、地震などの災害時の対応やクマ対策、除雪に関する意見が出ていました。この点は、不安を感じている住民の方々も多い部分だと思っております。

続いて、【町内会、子ども会、地域イベント、住民同士の交流】に関してですが、子供・高齢者・障害者など様々な人が集える場所を作る、若者にも公民館を利用してほしいといった意見が出ていました。公民館の活用やイベントの開催により、多世代で交流できる場を求めている声が多かったです。

次に【住民生活、生活の利便性、ボランティア】に関しては、雪かきや買い物、スマホの使い方などで若者の力を借りたい、おしゃべりボランティア・見守りボランティアがある

といいといった意見が出ていました。何か困った時に相談できる人や頼る人がいると良いと感じている方が多いようです。

最後に【その他】として、えんぶりや虎舞いなどの伝統文化に関することや地域の情報発信、空き家に関する意見が出ていました。

次に、資料1-2に移りますが、参加者アンケートの結果についてご説明いたします。

出席いただいた18名全員からアンケートにご回答いただきました。住んでいる地区や年代、地域における活動については、グラフのとおりとなっております。今回も幅広い年代の方に参加していただくことができました。

2ページからは各設問に対する回答内容になりますが、まず、1参加した感想については、全員から「参加して良かった」と回答いただきました。

いただいたご意見としては、多世代の意見を聞くことができ良かったという声が多かったです。

2今後も継続すべきかについても、ほとんどの方が「継続すべき」と回答をいただきました。意見を見ると、ワークショップを通して、地域への理解を深めることや多世代での意見交換が大事であると感じ「継続すべき」と回答した方が多かったようです。

次に、3改善点についてですが、地域住民にもっと参加してほしい、児童分野や障害者支援の分野からの参加があると良いなどという意見をいただいております。できるだけ多くの地域住民や様々な分野の関係者が参加できるように、今後考えていければと感じております。

4学生が参加したことの印象について地域関係者の方からは、若い世代の意見、新しい視点を知ることが出来てよかった、継続して地域に参加してほしいといった意見が聞かれました。

5地域の方と接して学生の方が思ったことについては、話しやすかった、地域の困りごとに関われば解決につながるのではないかと回答を頂きました。地域住民と学生それぞれにとって良い結果につながったと感じました。

6もし地域の活動に協力してほしいと言われたらどう思うかという質問に対して、学生の皆さんからは、地域活動に「協力したい」「協力する方向で考えたい」と前向きな回答を頂いていました。ワークショップにとどまらず、学生が地域で活動できる場や交流の機会があると良いのではないかと感じております。

7その他については、記載の通りとなっております。

今後はワークショップで出た意見を各参加者が自身の生活や地域で活動を行う中での手掛かりとしていただくほか、高齢者支援センターや市包括としてもより良い地域活動につなげていけるように活用していきたいと考えています。

続きまして、中居林地区で開催した第4回目のワークショップについてご説明いたします。資料1-3をご覧ください。

11月9日日曜日の10時から、総合保健センターで開催しました。

参加者は23名で、地域関係者が15名、学生が6名、高齢者支援センターが2名となっております。

開催概要は根岸地区と同様です。

グループワークで出た意見ですが、【生活インフラ、居住環境】に関しては、歩道の整備をしてほしい、バスの本数を増やしてほしいといった移動に関する意見のほかに、2ページ目に記載がありますが、入浴施設や映画館、飲酒可能なデイサービスが欲しいといった様々な意見が出ていました。移動手段の確保だけでなく外出したくなるような場所・外出先を求めている方が多いと感じました。

次に【住民の交流、集いの場】に関してですが、他の地区と同様、人とのつながりや交流の場を求める意見はやはり多く出ていました。

続いて、【住民生活】に関しては、病院の付き添いやゴミ出し、雪かきなど生活の困りごとを支援してくれる人がいると良いといった意見が出ていました。

その他については記載の通りとなります。

次に、参加者アンケートの結果について、資料1-4をご覧ください。

参加者23名中22名に回答いただきました。居住地区や年代、地域における活動については、グラフのとおりとなっております。

2 ページ目にまいりまして、まず、1 参加した感想については、22名全員が「参加して良かった」と回答いただきました。色んな方の意見を聞いて参考になった、楽しかった、地域住民の生の声を聞いたことが貴重だったなどという意見をいただきました。

2 今後も継続すべきかについても、ほとんどの方が「継続すべき」と回答いただき、ワークショップで話したことを実現するためにはさらに話し合いを重ねる必要がある、継続することで現実的な活動に繋がる、新しい取り組みが始まるきっかけになるなどの意見があり、現実的な取り組みを意識している方も多くいらっしゃいました。

3 改善点について頂いたご意見は、可能な限り、今後のワークショップに活かしていければと思います。

4 学生が参加したことの印象について地域関係者に対して聞いた設問と、5 地域の方と接しての印象について学生に聞いた設問についても、他の地区と同様、大変好印象で、直接対面で意見を交わす機会は、地域の方々にとっても、学生の皆さんにとっても、とても有意義なものになっていたようです。

今年度、地域関係者や学生の皆様からいただいた貴重な意見を各地域での取り組みや今後のワークショップに生かしていきたいと思います。次年度も引き続き、八戸学院大学と連携しながらワークショップの開催を継続し、今後の地域活動に活かしていきたいと考えております。

私からの説明は以上です。

#### ■池田会長

ありがとうございます。今回、2地域のワークショップだったんですけど、すごく素敵な内容でした。ありがとうございます。

もし補足点などありましたら、立石委員の方からお願いします。

#### ■立石委員

ありがとうございます。

八戸学院大学の学生が参加させていただいていますが、日程が土日ということで、学生の募集がなかなか困難を極めているところで、直接私の方で声をかけて、何とか来てもらっているという感じになっています。土日になると、やはり本学、部活動が盛んなので、試合や練習で参加が難しく、来たい学生がいても、そちらが優先になるので、可能であればどこか平日の部分でも出してもらおうと、授業の一環で連れて行けるかなというところではあります。

学生にとっても、アンケート結果を見ると、すごく貴重な経験になっているようで、本当に楽しかったという学生の感想を聞いたりしますので、ぜひ参加してもらいたいと思っています。

あとは、前回のところですが、その地域を知らない学生が参加していて、自分の地域を知らない学生が入っているのは意味がないのではないかと言われたというところで、地域の方の厳しい意見に学生が耐えきれないという部分もあったので、そういった経験がある

と、もう行きたくないということにもなるので、ファシリテーターの部分でうまい進行をしていただくことが必要かなと思っていました。当日、初めての地域の人もいる中でなかなかグループを進めるのってうまくいかないの、その辺りの配慮は少し必要かなと思っています。学校で練習はしていますけど、まだ学び途中ですので、その辺りが今後の課題かなと思っていました。

全体的な中身とすれば、前回ぐらいから課題を挙げるだけでなく、未来語りにするように「こんな地域にしたらいいよね」というように話し合ってもらうようにしていました。

課題と言えば、どんどん出てくるんですけど、それだけ言って終わるっていう感じになるので、それよりは、どんな地域であればもっと人が集まったり活性化するのかという発想でアイデアを出してもらうようにしています。そうは言ってもなかなか課題がいっぱい出ているので、その辺りの発想を転換するように継続していければと思っています。

2回目辺りは、地域に割と色々な社会資源が整っているし、祭りなどもあるので、どちらかというの良い面が強調されている部分が見えました。改めて、この地域の良い部分、えんぶりの参加であったり、地域行事への子どもたちの参加っていう、できているところを見習いながら、できてない地域はどうしたらいいかということで、共有できる機会もあればいいかなと思っていました。今後は、そういった形で、課題をたくさん出すのではなく、こうなったらいいよねという話し合いを進めてもらいたいと思っています。

あと1点、要望になるんですけど、私の方でワークショップを進行しているところではあるんですけど、本来であれば地域の生活支援コーディネーターの方々が中心となって回して、その次が大事だと思うので、議案2のコーディネーターの活動の中でありましたけど、出たものを改めて話し合うことも実際にやっていらっしゃるので、できれば生活支援コーディネーターの方にもグループに入ってもらって、その方が中心となって回してもらいながら、地域の実情を捉え、生の声を聞いてもらい、次にどうしようかというのを地域ごとで考えていかなければいけないと思っています。

私が出ると単発で終わってしまって、つなげることが難しいので、地域の課題をよりその地域のコーディネーターの方々が拾っていただく機会にするのが必要かなと思っています。人数が限られているし、なかなか業務で難しいとは思いますが、可能であれば、その他の専門職の方もグループに入ってもらって、意見を集約して、専門職での話し合いもまた必要なかなと思います。

そういった機会にしながら、地域ごとに少し質を高めていき、課題を出しやすい風を作っていけばいいのかなと思っていました。できれば私がいなくても、勝手に地域でできるような仕組みを作っていくことが、この推進協議会の中でも提案できていけば、本当に地域包括ケアシステムの実現につながるのかなと思っています。今後は少しそういったことを想定しながら、ワークショップも開催していけるといいのかなと思っておりました。

我々も協力をさせていただきながら、できるところと、協力していただきたいところを少し役割分担しながらできればいいのかなと思っておられます。

専門職の方はより主体的に自分たちの地域を作っていくということで、参加してもらうのがいいのかなと思っていましたので、その辺りを今後の課題とご提案ということにさせていただいて、次につなげていければと思っています。以上です。

#### ■池田会長

そうですね。今回、2地区を対比して見られるというのは、すごくいいかもしれませんね。多分、中居林地区だと、今お話ししたように、えんぶり組があったりとか、コミュニティというものがあるので、強みだったりするんですけど、地域によっては、全く何もなかったりということもあって、資源がないと集まる要素がないというか、そういうとこ

ろが弱かったりするのかなと思いますね。

あと、荻ノ沢委員、2層の生活支援コーディネーターとして、立石委員がお話していた、主催を高齢者支援センターの方々やるとなった場合、どのような感じですか。

不安な点とか、どこまでであればできそうだとか、何かあればと思うんですけど。

■荻ノ沢委員

ワークショップ自体は、なかなか難しいというか、結構大変なのかなと思っています。

ただ、先ほどお話があったように、「その後」というところで、私たちの方では、ワークショップで出た意見をもう1回皆さんで集まって話しましょう、という取り組みはしていました。

立石委員のように、うまくはなかなかできないんですけど、それでも、こういうワークショップで出た意見というのは無駄にしないようにと思って、去年くらいからいろいろやっていたんですけど、何か形にと思った時に、形にするとすると、すぐにはなかなか難しいのかなとも思っています。

■池田会長

そうですね。「形＝費用」というものが出てきてしまいますからね。確かに難しいところですよ。ただ、それでもフィードバックをするのは必要かなと思いますね。

そうですか、やはり開催自体というのは難しいものですか。

■荻ノ沢委員

そこは、私たちも勉強してやらないと難しいだろうなとは思っています。

■池田会長

例えばなんですけど、今後マニュアルみたいなものを作るのは可能なものでしょうか。

大体の流れってある程度決まっていると思うので、例えば事前準備を何ヶ月前からやって、それを告知していくとかっていう、一連の流れ自体があれば たぶん高齢者支援センターもそんなに大変ではないかなと思って、それに沿って、告知をどこにしたらいいとか、講師の先生たちはいるので、その辺はいいと思うんですけど、進行と講師の振り分けってところがあれば、すごくわかりやすいのかなって思うんですよ。

住民の人たちも、先生たちに聞くのではなくて、高齢者支援センターの人たちに当日聞けるような体制っていうのは、必要なかもしれないですね。

■立石委員

そうですね。当日のファシリテーターが専門職の方が、学生への配慮だったり、地域住民の方の声を拾ったりというところも、うまく導いていただけるとかなと。

当日入って見ないと本当にどんなグループになるか分からないので、そういった意味で少し緩衝材ではないですけど、見ていただくとうれしいなと思っていました。

あと、何回もやれという話ではないですけど、地域でこれが課題だよというキーワードが今回出てきたと思うので、例えば、空き家対策というのは全国的な課題だと思いますし、今日はちょっと空き家対策について話し合ってみましょうという感じで、興味のある人に集まってもらって少し話をして、継続していくようなテーマを絞りながら各地域でやっていくと、少し見えてくる部分もあるのかなと思います。

ただ、やっぱり時間がかかるし、毎回うまくいくものではないとは思いますが、そうやって地域を耕していき、まず大事なことは言葉に出すことなのかなと思うので、なんとなくみんな思っている、実際残っていないと消えてなくなってしまうので、これが残っていることで、次やった時に、前はこういうのが出ていたから、今日はここに焦点を当てて話し合っていきましょうというように繋がっていくと思っています。

委員がもし次、ガラッと変わってしまって、また一からやるとなると、これまでのこと

が生きてこないもので、これが生きる形で何年も続けていけば、自ずと解決できる内容も出てくると思うので、少し見通しを立てながら進めていけばいいのかなと思いました。

■池田会長

そうですね。単純になんですけど、今こうして出た意見を一回フィードバックして、今みんなの中で何が一番重要かなっていうのを一つ残しておいて、それを次回やった時に題材にして、前回こういう意見でみんなが大事だっていう話だったので、これを今回は題材にしましょうって感じで進めていくっていうのだと、繋がりが出てくるかもしれないですね。今言ってくださったこと、すごく重要ななと思います。

あともう一つ、学生がせっかく参加したのに嫌な思いをしてもう行かないってなるって、すごく残念だなと思うので、そこは修正していった方がいいかなと思いますね。

その学生たちが残って地域に貢献してくれる場合もあるわけなので、そう考えると大事にできればなと思います。ちょっとしたきっかけが、結構その学生たちにとって大きくなる可能性もあるのでね。

■立石委員

そうですね。

今回2回目に参加した1年生の学生でしたけど、地域の人と手芸か何かのボランティアの話をもっと具体的にしている、また今度おいでよみたいな話になっていたのも、すごくいいなと思っていました。

学生にとっては、そういったつながるすごく貴重な機会だと捉えていますので、私としては、多くの学生に参加してもらいたいという思いはあるんですけど、なかなか学生によってモチベーションが違うので、出る学生はレクチャーしながら、研修を受けてもらう形で継続していければと思います。

あと、各地域でワークショップやる時は、行けるところには伺いますし、ご協力させていただきますので、回すことしかできないかと思うんですけど、可能な限り協力しながら、そういった場に学生も連れて行くともっと身近な感じで学生も参加できるかなと思っています。

そうして少し発展的に考えていくと、また違った面が見えるかなと思っていました。

■池田会長

ありがとうございます。

あの、阿部委員、今回初めての参加だと思うんですけど、やはり地域の一番の担い手でもあると思うので、今聞いた中で、ご意見などありましたら。

■阿部委員

そうですね。去年は確か、吹上でもワークショップやりましたよね。その時、私も参加しまして、学生さんも来て色々お話し合いして、若い人の意見も聞いて楽しいなと思ったんですが、結局、町の高齢者に対する町の問題としていろいろ出ていきますけど、やはり集まる場所が少なすぎるというのがありますね。

今、先生からもお話しあったように、昔であれば各地でえんぶりがあつたり、私のところは三社大祭もありますけど、その他に青年団とか、町のサークル連協とか、子ども会とか、いろんな団体が小さいイベントというか、集まりを行っていて、その集まりがだんだんとその地域を盛り上げてきたような感じがありますので、そういうものを広げていってもらえれば、こういう問題も徐々になくなるのではないかなと思っています。

いろいろ問題がある中で、包括支援センターさんの方に相談するような形でやってきておりますけど、町内会の衰退とか民生委員の不足とか、いろんなものが背景にありまして、なかなか集まる場所とか、そういうものが本当に少なくなっているの、地域の活性

化ということで、私どもも力を入れながら、昔あった体制を小さいところからやっていければなと思っておりました。

■池田会長

ありがとうございます。

阿部委員、ちなみになんですけど、今、阿部委員の管轄している地区で、集いの場っていうところってありますか。

■阿部委員

集いって言うと、元煎餅屋があったところでお茶を出しているところもありますし、社協の方はほっとサロンがありますし、また、館越地区の方であれば、公民館のようなところがありまして、そこでも活動していますし、それぞれ協力してやっています。

あとは、ちょっと話は別ですけど、在宅療養の方でも、できればもっと病院に頼らないで、家で診られるような体制をとれるといいという声も聞きます。

■池田会長

そうですね。介護が必要になったりすると、自宅で難しくなって、施設に行く形がやはり多くなっちゃうんですよね。本当は、できれば在宅で見取りができる形をとればいいんですけど、なかなかその辺、難しいところもあるかなっていうのをすごく感じますね。

はい、ありがとうございます。

堀内委員、何かございますか。

■堀内委員

学生さんがこうやって積極的に参加して下さるっていうのは、すごく地域としてはありがたいんじゃないかと思います。その学生さんが地元で生活するってなった時に、一度出たとしても、いつか戻ってきて地域に貢献してくれるということも考えられるので、いい取り組みだなと思っています。

■池田会長

ありがとうございます。

加藤委員も、今のお話の中で何かありましたら。

■加藤委員

立石委員が言われたように、やはりこのワークショップの話し合いは大事ですけど、どの地域を見ても同じような問題が出ていまして、それをさらにどうしますかというところが、次につながるものだと思うので、サロンのような場所、誰でも居れる空間があればいいなって思います。若い方も高齢の方も子供世代も誰でもという場所。

ただ、その場所も難しい問題で、街中は空き店舗とか色々ありますが、市の方でどうにかならないんですかね。公民館はありますが料金がかかるので、やはり無料のところだと、私たちでも、みやぎ会さんにしろ、何かしらやれるかもしれませんが。

ワークショップも大事です。いろんな意見があって、学生さんとも交流があるんですけど、その次っていうのを考えると、一歩踏み出して、いろんな成功例を出してから、いろんな地域でこういう取り組みがありましたよっていうようにやっていければと思います。

そのためには、ボランティアですよ。月1回からでもいいので、どこかで、できれば協力を惜しみませんけどと感じではいます。

生協でもお買い物バスをやっています、是川地区と岬台地区の方でやっていますけれど、待っている間に生協のお店の2階で、「お茶っサロン」というか、ちょっとお茶を出して、バスが来るまでの時間交流することができればいいなって、初めは月1回から小さいところからでもいいので、できたらなって思っていました。

この話を聞いて、やっぱりいろんな地域で繋がりが薄くなっていて、子ども会はない、

町内会もない、何もないっていう、本当に孤立化している中で、みんなが集まれる場を作りたいんですけど、一つのところじゃできないので、皆さんの協力がいると思っています。

■池田会長

生協で行っている送迎してお買い物できるサービスって、すごいですよね。

軽度者のデイサービスに来ている人で一番困っているのって買い物なんです。家から出られなくて買い物に行けなくなるので。それをスーパーさんたちが協力して、送迎してやってくると、自分たちの利益にもなりますしね。

そういうのって生協さんしか今やってなくて、そう考えると、生協さんの取り組みって、すごくいいなと思うんですよね。

■加藤委員

でも、年々やはりバスの利用人数が少なくなっているの、周知とかも町内会とかと関連してやりたいんですけど、いかんせん繋がりがないので、組合員の声だけで拾っている現状で、誰が困っているとかっていうのも全然分かってなくて、点と点が繋がればいいなって思っています。

■池田会長

そうですね。知らないっていう人が結構多くて、その知らない人にリーチするのって結構難しくてですね。それをどういう媒体を使うとか、どういう風にしてやっていくかっていうと、やはり回覧板だったり、例えばその地域の広報とか、そんな形になってくるかなと思うんですけど、なかなかそれも見ない人もいらっしゃるんでね。

そう考えると、一軒一軒回るわけにもいかないの、その辺で何か工夫できればすごくいいなっていうのと、あと、それこそ高齢福祉課の方で、何か良い方法で繋がると、もしかすると、今困っていて知らないという人がすごくいると思うんで、その人たちが繋がるのかなっていうところもありますよね。買い物ができないって本当に大変なことなので。

あと、出かけるっていうのも、一つのキーワードになるので、買い物だけでなく、そこに行くっていうのもすごく重要なのかなと思いますね。ありがとうございます。

■加藤委員

サロンのなものが開けたらと思います。

おしゃべりボランティアじゃないですけど、ただ単に人が集まって、ただお茶を飲んだり、折り紙とか、脳トレになるようなものができる場をやりたいんですけど、場所さえあれば何とかかなるかなと思います。

■池田会長

八戸には無いんですけど、ケアローソンというのがあって、全国で何箇所かなんですけど、ケアマネの事務所があったり、介護予防教室をやったりしているローソンがあるんです。

秋田市の駅前に1箇所あって、昔興味があって行ってきたんですけど、結構広いスペースでケアマネの事業所が入っていて、そこで月1回の介護予防教室をやっていて、そういうちょっとしたのもいいのかなと思うんですけどね。

今この辺だと無いんですけど、生協さんがやると、それを目当てで来る人も増えてくると思います。すごくいいお話でした。どうもありがとうございます。

続いて、第2層生活支援コーディネーターの活動について、事務局より説明の方をお願いいたします。

## (2) 第2層生活支援コーディネーターの活動

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

地域包括支援センターの柏崎です。

私からは、議事2、第2層生活支援コーディネーターの活動について、説明をさせていただきます。資料2をご覧ください。

内容としては、第2層生活支援コーディネーターが日々どのような活動をしているのか、ということがメインになるのですが、こちらの協議会も、前回から加藤委員が、今回から阿部委員がそれぞれ新たに参画いただきまして、生活支援コーディネーターのイメージが付きづらい部分もあろうかと思しますので、生活支援コーディネーターとは、どんな人なのかを簡単に説明をさせていただいてから、内容の方に入っていければと思います。

この生活支援体制整備事業は、高齢者が住み慣れた場所で安心して生活を続けられるように、地域の環境を整備していくことを大きな目的とした事業になります。

いわゆる地域づくりをしていく事業と言っても良いかと思えます。

その中で、地域にはどのようなニーズがあって、どのような関係者がいて、何ができて何ができない地域なのかということ把握し、それを元に、ニーズと資源をマッチングしたり、関係者同士をつないでネットワークを構築したりする調整役として、生活支援コーディネーターの役割が求められています。

つまりは、生活支援体制整備事業の中で地域づくりを行っていく際のつなぎ役、これが生活支援コーディネーターです。

主な役割といたしましては、1番にありますとおり、資源開発、ネットワーク構築、ニーズと取組のマッチングの3つがあげられます。

1つ目の「資源開発」ですが、地域の実情を把握し、不足するサービスを創り出したり、それらサービスの担い手の養成や元気な高齢者の活躍の場の確保といった役割が求められます。

次に2つ目の「ネットワーク構築」ですが、民生委員や町内会、ボランティア、福祉施設、民間企業など、地域の様々な関係者間の情報共有を支援したり、そこにおける連携の体制づくりを行う役割を担っています。

そして、3つ目の「ニーズと取組のマッチング」ですが、高齢者の困りごとや支援を求めていることと、それをサポートできる地域資源やサービスをつなぎ合わせ、地域における高齢者の安心した生活を支援していく役割を担っています。

このように、この事業において非常に重要な役割を担っている生活支援コーディネーターですが、その配置状況につきましては、2番にありますとおり、市全体に係るこの事業の推進を図っていくことを目的に活動している第1層コーディネーターと、より地域に根ざした形で活動を展開していく第2層コーディネーターの2層の体制となっています。

第1層は、地域包括支援センターに3名配置しており、第2層は、市内12か所に設置している高齢者支援センターに2名ずつ配置しており、それぞれが役割を担って活動しています。

それでは、3番の活動内容に入りますが、各高齢者支援センターに配置しております第2層コーディネーターが日々どのような活動を地域で行っているのか、高齢者支援センターを対象にアンケート調査を行った結果をまとめたものになります。

時間の都合上、全てを紹介さしあげることが難しいので、特徴的なものをいくつか紹介していければと思います。

まずは1枚目の「市川・根岸地区ミライフル」の3つ目の丸になりますが、先ほどの案件でも説明をさせていただいたように、11月に根岸地区でワークショップを開催しました。

そこで出た意見を参考に、今後の地域活動につなげていけるよう検討しているとのことです。災害時の避難に関することや伝統文化の継承に関すること、空き家の活用に関する事など、様々な意見が出ておりましたので、地域課題の解決につながるような検討がな

されていけばいいなと感じています。

2枚目に参りまして、「長者・白山台地区ちょうじゃの森」の丸の4つ目になります。地域主催の懇談会に参加し、地域課題に関する意見交換を行ったとのこと。

長者地区も昨年度ワークショップを開催していますが、先ほど立石委員からご意見いただいたように、ワークショップを開催して終わりではなく、このような地域主体の活動が活発に行われ、地域課題に対する住民同士の認識の共有と具体的な解決に向けた話し合いが進んで行けば、より地域活動が活性化していくのではないかと感じておりました。

次に、その下「三八城・根城地区みやぎ」ですが、イオンスタイル沼館や小規模多機能型事業所など、地域の関係者と連携した活動に積極的に取り組んでいます。

その中で丸の3つ目ですが、ワークショップで出た買い物に関する地域課題に対して、地域の酒屋やホームセンターと連携して、高齢者向けのお買い物資料を作成したとのこと。ワークショップで出た意見を拾い上げ、地域の関係者と連携して、元々地域にある社会資源を上手く生かしていけるような取組みを提案していくという、まさに生活支援コーディネーターの活動そのものであると感じました。

次に、「柏崎・吹上地区八戸市医師会」になります。資料は3枚目に参りまして、3つ目の丸になります。

柏崎地区では、今年度開催したワークショップの中で、災害発生時の避難に不安があるという意見が多く上がっていました。そのことを踏まえまして、地域の企業と協議し、一時避難先の確保につなげたという取組みです。今後はさらに災害時の仮設住宅として解放できるかについても検討中とのこと、地域課題にとどまらず、市全体の災害対策につながるような取組みを行っていると感じました。

続いて、その下「是川・中居林地区ミライフ」ですが、こちらのセンターも、11月に中居林地区でワークショップを開催しております。

丸の1つ目ですが、若者や近隣同士でつながる機会が少ない、という意見をもとに地域関係者と実現可能な方法について検討を行っていく予定とのこと。

この「実現可能な」という部分が大切だと感じておまして、様々な意見や要望が出て、なかなか実現が難しければ、その話が頓挫してしまうことにもなりますので、どういう方法であれば実現可能かという視点で考えていく姿勢は非常に重要だと思います。

また、4つ目の丸ですが、この地域は買い物ができる場所や、そこまでの移動手段に関する課題が根強くある地域です。ミライフでは、そこに着目し、福祉用具業者と連携して、シニアカーの展示試乗会を行ったとのこと。

地域課題に対して、地域関係者と連携して、実現可能な方法を検討している好事例だと感じました。

特に交通に関しては、バスの本数を増やして欲しいとか、道路を整備して欲しいなど、ハード面の話になると、どうしても費用や時間がかかってしまう中で、高齢者一人ひとりが移動できる手段を持てればと考えての対応だと思うので、非常に良い視点の持ち方をされていると感じるところです。

4枚目にまいりまして、「白銀南・鮫・南浜地区瑞光園」になりますが、丸の1つ目、地域の様々な分野の関係者と連携して、中学生を対象に「認知症徘徊 SOS 模擬訓練」と「認知症サポーター養成講座」を開催したという取組みです。

開催内容もさることながら、瑞光園が中心となって、様々な分野の関係者とつながりを築き、一丸となって1つの取組みを成功させたという点で、今後につながる大きな意義のある活動だったと感じています。

他のセンターにおいても、高齢者等からの個別の相談に対応し、配食サービスや自費の

ヘルパー、障害者就労支援事業所のごみ出し支援などの地域資源とマッチングしている取組みが多く見られました。

先ほど紹介したような、新たな地域資源や活動を生み出していくというのも、コーディネーターの大切な役割ですが、既存のサービスと今まさに高齢者が支援して欲しいことをつなぎ合わせてマッチングしていくというのも、コーディネーターとしての非常に重要な役割の一つですので、そういった取組みが日々なされているのは素晴らしいことだと感じています。

このように見ていただくとわかりますように、八戸市の中でも地域差が非常に大きく、抱えている課題も様々です。その課題に対して、12か所のセンターそれぞれが、それぞれの視点で課題を捉え、それぞれの考えのもと様々な地域関係者と連携して、地域にあわせた方法でアプローチしていることが今回の調査でよくわかりました。

特に、ワークショップを開催した地区のセンターでは、先ほど荻ノ沢委員からもお話しいただきましたけど、そこで出た住民の声を拾い、そこで終わらせない様にしようという意識が非常に強く感じて、次の活動につなげるよう検討している様子が伺え、ワークショップの場を効果的に活用してもらっていると強く感じました。

今回、とりまとめたこの内容については、センター同士でも大変参考になるものだと感じていますので、来週開催される「高齢者支援センター関係職員会議」の中で、案件としてあげ、全てのセンターと共有していければと考えています。

そして、現時点でワークショップは、市が主催して開催していることもあり、年3～4回が限界ですが、一度開催したワークショップをきっかけに、地域の中で話し合いの場が持たれていけば、仮のそれが同等レベルのワークショップでなかったとしても、ワークショップの様な取組みが地域に広がっていくことになると思いますので、そういったことも意識しながら、引き続き各高齢者支援センターの第2層コーディネーターの活動をサポートしていければと、またワークショップの在り方についても精査していきたいと思います。

以上で私からの説明を終わります。

#### ■池田会長

ありがとうございます。

只今の説明し対して、ご意見やご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

はい、それでは、続いて、生活支援コーディネーターの変更について、事務局より説明をお願い致します。

### (3) 生活支援コーディネーターの変更

#### ■事務局（佐藤保健師）

地域包括支援センターの佐藤です。

私の方から、議事3、生活支援コーディネーターの変更について、説明させていただきます。資料3-1をご覧ください。

生活支援体制整備事業におきましては、市の役割として、主に協議体の設置と生活支援コーディネーターの配置の大きく2つの事が求められています。

その中で、生活支援コーディネーターについては、市包括支援センターと市内12か所の高齢者支援センターの専門職が兼務をする形で配置をしております。

市包括支援センターのコーディネーターを第1層コーディネーターとして、市全体に係る事業の実施に向けた対応をしています。

また、高齢者支援センターのコーディネーターを第2層生活支援コーディネーターとして、地域レベルでの活動をそれぞれ行い、相互に連携しながら、地域における社会資源の

開発、関係者同士のネットワークの構築、高齢者のニーズと社会資源のマッチング支援を行っております。

このたび、配置職員の異動等があり、高齢者支援センターに配置しているコーディネーターに変更がありましたので、ご報告いたします。

市川・根岸地区のミライフルにおいて、角濱社会福祉士から岡田主任介護支援専門員へ、是川・中居林地区のミライフルにおいて、田向看護師から北村主任介護支援専門員へ、大館・東地区のみやぎにおいて、坂本保健師から手倉森主任介護支援専門員へ、それぞれ変更となっています。

なお、引継ぎなどについては、これまで同様に、前任者やセンター内の別のコーディネーターからの引継ぎを基本としつつ、必要に応じて、機会をとらえて市包括からも事業の説明を行っていきたいと考えております。

資料3-2は、今回の変更を反映した生活支援コーディネーターの一覧となっています。

市包括に3名と高齢者支援センターに各2名の、合計27名体制となっております。引き続き、連携をしながら本事業を推進していきたいと思っております。

以上で、説明を終わります。

■池田会長

ありがとうございます。ただいまの説明に対し、ご意見やご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

はい、立石委員。

■立石委員

先ほどの活動の面も含めてなんですけれども、私も以前、現場に身を置いていた身として、人に頼るといいますか、人が変わるとガラッと変わるというところがあるので、あの人いた時は良かったけど、なんか変わったらダメだみたいな話だと良くないので、引き継ぎをしていただいて、仕組みを残してもらい、せっかく良い取り組みを継続されているところもあるので、途切れないように地域としても盛り上げていっていただきたいなという思いがあります。

ワークショップをやった効果が見えるところもあるので、人が変わったらそこが切れたとならないように、きちんと引き継ぎをしていただいて、あるいは次に受託する法人が変わった場合にはそこも引き継いで、地域の課題を共有しながら、協力しながらやっていただくといいのかなと思っていました。

あと、本来的な業務とすれば、資格で言えば社会福祉士なんだろうと思うんですけど、センターによっては看護師と主任ケアマネというところもあるので、そういったところまでは言えないとは思いますが、異動になったからコーディネーターも変更というのは、あまり好ましくないかなとも思いますので、実態が伴う形で、組織内で連携しながらやっていただきたいと思っております。

■池田会長

荻ノ沢委員、生活支援コーディネーターの方々は、研修とかっていうのは受けていらっしゃいますか。

■荻ノ沢委員

一応、社協とかでやっているものの案内とかが流れてきています。

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

県が主催の研修が年数回ありますが、それは、我々包括にいるコーディネーターもそうですけど、必要時参加できるように、各センターにも案内しております。

ただ、コーディネーターとして配置していただく上での要件としては、特に養成研修を

必ず受けていることを求めていない状況です。

活動いただく上で、どこかのタイミングで受けていただければ、合点がいく部分はあるんでしょうけど、体制上の理由や業務の関係で受けられずにいるということはあるかもしれません。

#### ■池田会長

私自体は、生活支援コーディネーターができる前の生活支援事業の研修は受けてはいるんですけど、今現状は、社協の方でやっている研修があって、私も今月、応用編を受けるんです。そういう研修があるので、もしよろしければ受けられた方が、基礎的な部分はイメージが掴めるかもしれないですね。

協議体としてもそうですし、荻ノ沢委員みたいに2層で頑張っていらっしゃる方たちも、内容を共有するという意味で、基礎的な部分に分かっていると共有しやすいかなというのがありますし、グループワークを行う際もいいのかと思いますね。

どうもありがとうございます。

今回の案件は以上となるんですけど 皆さん、最後にご意見やご感想など、何かございますでしょうか。

はい、町井課長お願いします。

#### ■事務局（町井高齢福祉課長）

皆様、ありがとうございます。皆様から貴重なご意見、ご感想をいただきました。それで、市としての見解を少し述べさせていただきたいと思います。

立石委員の方から、開催の曜日について、土日以外でというところをお話いただきましたが、我々内部でもそこは少し話し合っていたところです。根岸地区と中居林地区は、土日の連続した2日間でした。2日間、立石先生の方には出ていただいて、前回も土日続けてではなかったですが、比較的間隔が短い中にご出席いただいて大変ありがたいなと思っておりましたが、平日の時間帯というのも、授業の一環として可能だということなんでしょうか。

#### ■立石委員

授業にもよります。なので、こちら側である程度この授業ということで指定しなければならぬので、何曜日の何時頃という形にはなるかとは思っています。

#### ■事務局（町井課長）

そこは、また改めてご相談をさせていただければと思っておりました。

あと、ワークショップの進行は立石先生の方をお願いしていたところで、ファシリテーターの部分ですけど、やはり最初はどうしても難しいところもあるので、一緒に出て聞いていただきながら進行を学んでいただき、その中で、マニュアル的なものというお話もございましたので、その点もできればこちらの方で検討したいと思っております。

あと、一回の開催で終わりではなく、地域でできる仕組みというところで、それが地域包括ケアシステムの推進につながるという、まさにその通りでございます。そういったところで、実際に二回目以降にもつながっている実績もお聞きしていますので、うまくできるように我々としてもできることに対応していければと思っております。

あと、ワークショップで、どうしても課題ばかりが出てしまうというご意見もありました。ワークショップに限らず、市の職員が地域に出向くと、課題や不満等をお話いただくことがあるんですけど、このワークショップに関しては、私も根城地区に出させていただきましたが、課題ではなくて、こんな地域にしたい、どうしたら活性化するかという意見が聞かれて、立石先生がおっしゃったように、皆さんが「良くしよう、良くしよう」という形でワークショップをやられていると感じ、非常に良い取り組みだと思っておりました。

です。先ほど担当からもありましたように、回数は限られるんですけど、継続していければと思っております。

あと、学生が嫌な思いをしたというところでもございましたけど、どうしても、学生も地域の方もいろんな方がいらっしゃる中で、すごくうまく行って盛り上がることもあると思うんですけど、その逆のこともあるわけで、学生が入るときは、どうしても不安があると思いますので、何か事前に配慮できる方法がないか検討したいと思っています。

あと、加藤委員から、集いの場で費用のかからない所というご意見がありましたけど、空き家となると、ご存知の通り違う部署になるので、すぐの対応とはならないんですけど、総合保健センターの中に介護予防センターという所がありまして、そちらで体操会や介護予防教室なども行っているの、是非そういった所も活用していただければと思います。制限はあるんですけど、内容、場所、時期によってはお貸しできる場合もありますので、こういった形でやりたいというのがあれば、まずはお話をお聞かせいただきたいと思っております。

あと、紹介ですけど、「元気な八戸づくり市民奨励金制度」というものがありまして、これは市民連携推進課で行っているものなんですけど、地域の各団体が行う活動が、地域コミュニティの活性化につながる取り組みであれば、市が補助金を出すという取り組みがあります。

今年度、老人クラブと町内会が連携してイベントを開催して、非常に盛り上がっているようで、補助金は種別によって、20万円から40万円が出るんですけど、そういったものを活用して活性化されているということも聞いています。

民生委員のなり手がいないとお聞きしましたが、やはり老人クラブも大分少なくなってきておりまして、20年前くらいは205程あったんですけど、今は103程になっています。さらに、当時は加入率が43%という時期もあったんですが、残念ながら今は4.5%程で、10分の1程になっています。そこは社会情勢であるとか、時代が変わってきたというところもあると思うんですけど、そういった中で、ある老人クラブが立ち上がって、連合町内会と連携して活性化させようという取り組みがありました。

年度によって、申込期間や内容などの条件はありますけれど、そういった事業を活用されるのも一つかと思えます。それ以外にも、いろいろな事業がございますので、機会があればご紹介できればと思っております。

あと、最後にコーディネーターの引き継ぎというところですが、どうしてもやはり組織ですので、委員の皆様も同様に任期があって団体推薦という形にはなるんですけど、そこはある程度しょうがない部分として、コーディネーターも、我々職員も異動になっていきますが、しっかりとこの事業を引き継いで我々もやっていきたいと思えますし、高齢者支援センターの方にも、しっかりと引き継いでいくように伝えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。以上になります。

#### ■池田会長

はい、課長、貴重なお話ありがとうございます。

課長も言ってくれた、集いの場ですけど、南部町が集いの場40か所あるんですよ。やはり大都市になればなるほど、集まれる場所が少なくなってきているというのはあるのかなと思えますね。そこを加藤委員が言ってくれたように、いろんなところで集まって、来たらお茶くらい飲むよってという感じでやれば、すごくいいのかなと今回感じました。

皆さん、どうもありがとうございます。

これをもちまして議事を終了し、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願ひします。

## 次第 4. 閉会

### ■ 司会（沼岡地域包括支援センター所長）

池田会長、ありがとうございました。

今年度の本協議会は、今回の2回目をもちまして終了となります。また、皆様にご就任いただいております、本協議会委員の任期の方ですが、3月31日で満了となります。

皆様には生活支援体制の充実、強化、高齢者の社会参加に向けて、様々ご意見、ご審議をいただきましてありがとうございました。今後とも事業の推進に向けて様々検討、協議をしてみたいと考えております。

最後に、本日、当日の資料としてお配りしました資料につきましては、事務局で回収をさせていただきますので、お席に置いたままお帰りくださいますようお願いいたします。

それでは、これもちまして、令和7年度第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会を閉会いたします。皆様、大変ありがとうございました。